



一般社団法人 日本LD学会

会 報 第 86 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

主な記事

<特集>

- ・新しい心理検査：KABC-II
- ・心理職の国家資格化について

<連続講座>

- ・各地の発達障害者支援センターの取り組み
- ・中学校での通級指導教室の実践

<お知らせ>

- ・第2回代議員選挙について
- ・第22回大会について



特別支援教育において、 学習面の困難に取り組むべき時が来た

日本発達障害ネットワーク

山 岡 修

2012年12月に文科省の全国調査の結果が公表され、通常の学級の中に発達障害等の可能性のある児童生徒が6.5%程度在籍しているという結果が示された。このなかで、「学習面の困難」を示す児童生徒は約4.5%で、全体の約69%を占めている。このことは「学習面の困難」が、発達障害の中核的症狀であるということを示している。

2001年1月に「21世紀の特殊教育の在り方について」が公表され、特殊教育から特別支援教育への大転換が告げられた。それから12年。2006年にLDとADHDが通級による指導の対象に加わり、2007年4月には特別支援教育が制度としてスタートした。2011年には小学校で新学習指導要領が全面実施となり、通常の学級においても、個々のニーズに応じた指導を行うことがうたわれ、自立活動の中で、発達障害を念頭に置いた支援方法の例が示された。

このように、特別支援教育が進展していく過程で、発達障害に対する教育的支援は、12年前とは比較できない程拡充されてきた。しかし、この中身を冷静に眺めてみると、「行動面の困難」が先行しており、「学習面の困難」は、脇役に置か

れている感が否めない。そして、その原因ははっきりしている。「行動面の困難」に困っている教員が多いので、そちらが優先されてしまうというのである。困っているのは子ども達である。そろそろ、「学習面の困難」に焦点を当て、具体的な支援の道筋を構築していくべき時期に来ているのではないか。

「学習面の困難」のある子ども達を見分け、その特性や要因をアセスメントし、長期的展望に立った指導計画を策定し、専門性を持って教育的支援を行っていけるような体制を整備していくことが喫緊の課題である。これらは、まさに日本LD学会と参加されている先生方が発足以来、研究と実践を積み重ねてこられた分野である。特別支援教育において、学習面の困難に取り組んで行くために、日本LD学会には、提言や、理論と実践面でリードしていく役割が期待される。

定款によれば、日本LD学会の目的は、「LD等を有する児（者）に対する教育の質的向上と福祉の増進を図ること」である。今、まさに日本LD学会の真価を発揮すべき時が来ている。